

木津川と里山を活かしたまちづくり
竹蛇籠の編上げと設置とオオムラサキの産卵の発見

NPO 法人 やましろ里山の会 理事長 深田三郎
副理事長 播川司
常務理事 ○山村武正

1. 活動方針・目的

自然を大切に作る仲間の輪を大きくする。

2. 活動内容

市民団体と協力して木津川に竹蛇籠の設置を行った。

里山農園に教育棟を建設し、国蝶オオムラサキの観察を行い、産卵を撮影できた。

3. 他の活動団体の参考となる事例

- 1) 木津川での魚とりや植物調査の中で河床低下問題に気付き水質調査の継続 5 年目を実施、一回 100 人以上の参加を得る親子魚とり「木津川で親子で遊ぼう学ぼう魚とり」を実施した。木津川で古来工法による竹蛇籠を作り水生生物や魚などの住みかづくりを目指して設置した。

河川に異物の設置は認められないので、木津川に生育する真竹を活用し、玉石は木津川の河川敷で拾い集めた石を使用し、主材料は外部から持ち込まないで自然にやさしい従来工法を用いることで木津川出張所の許可を得た。

- 2) 里山農園は 7 年前まで放棄されていた農地を開墾し、田圃を復旧させた。炭焼き体験や米づくり体験、昆虫や植物観察を実施する中で国蝶オオムラサキの発見、カスミサンショウウオの卵囊の発見を行い、自然のすばらしさを再認識した。40 年ぶりに笹竹を切り開いた斜面ではササユリが開花し、年ごとに花数が増え 2015 年 6 月にはなんと 5 輪が開花した。7 月のオオムラサキの観察会では夕方 4 時過ぎの 20 分間で二匹の成虫の産卵を撮影できた。里山は人の手が加えられることによって自然が自ら復元、再生していくことを伝えたい。

4. 今後の課題等

竹蛇籠の設置は 10 月中旬であったが、一週間後の生物調査では車エビや小魚が見つかっている。今後は眺めるだけの遠い存在から川から容易に近づけるよう通路を切り開き、砂州を歩き、川を身近に感じて、直接、本流に接する竹蛇籠の周囲で魚など生育を観察できるようにしたい。併せて監視体制や安全体制を確立させ、川に学ぶ場として充実させたい。

教育棟の年間活用と観察棟を使ったオオムラサキの生育調査を子どもたちの手によって実施してほしい。

第11回関西元気な地域づくり発表会

木津川と里山を生かした まちづくり

竹蛇籠づくり講習会と設置 オオムラサキの観察から

京都府京田辺市
特定非営利活動法人 やましる里山の会
播川 司

やましる里山の会自己紹介 ①

1996年5月に13名で発足

年間予算30万円⇒ 現在 会員250名 決算1100万円

活動の目的 自然を大切にする仲間の輪を大きくする

活動の内容 自然観察

昆虫オオムラサキ 植物レンリソウ

両生類カスミサンショウウオ 野鳥オオタカ

活動発表 里山展 京都府環境フェスタ 京田辺市民文化祭

やましる里山の会自己紹介 ②

調査観察 木津川の植物観察調査 0~24km 絶滅危惧植物27種82か所の保全
約5000㎡の面積を調査 管理 保全している

京都府の絶滅の恐れのある生き物(25種)...保全団体登録(3種担当)

発刊書籍 木津川生育植物標本写真集

京都植物誌目録ノート

京都木津川の草花たち

京都植物目録ノート資料原本集

木津川読本「木津川はどんな川？」山城地域の学校に50冊ずつ寄贈

発刊 里山の会機関誌「里山の自然」約180ページ 年2回発行 現在40号

里山週刊ニュースの発行 毎週木曜日 606号に到達

年間イベント数 約100回 年間参加者数:約7000人 主なスタッフ:50人

木津川に竹蛇籠の設置で魚の住みかを増やそう 1

- 淀川水系のうち木津川は京都南部を南北に流れる歴史の川
三重県青山高原を起点に約99kmの砂河川・木津が平城京の港
恭仁京(聖武天皇) 筒木の宮(地名...都谷 公家谷
63年前 山城大水害が発生 高山ダムの実現 その他5ダムが建設
土砂の供給が止まる
河床低下問題の発生 湿田が乾田に 稲作・・・地下水利用5m現在10m
台風18号では堤防の下をくぐってくる水が湧き出る
民地の崩壊・流失が発生
河川敷の樹林化の進化 高水敷への冠水の減少
河床が低下 流路の固体化 水辺雑草の繁茂地減少
魚の住みかが無くなる

木津川に竹蛇籠の設置で魚の住みかを増やそう2

魚の住みかづくり 瀬や淵の再現

| | |
|--------|------------------------------------|
| 材料 | 真竹 河川敷に生育しているものを利用 |
| 玉石 | 川にごろごろいくらでもある |
| 松杭 | これは購入した |
| 構造物の設置 | 川に構造物の埋設 川にあるものを活用 |
| 材料について | いずれも川に自然にあるものを利用する 古くなれば腐って残らない |

木津川に竹蛇籠の設置で魚の住みかを増やそう4



木津川に竹蛇籠の設置で魚の住みかを増やそう5





人海戦術で玉石を入れました
知らない人と手につながった
カヌーで対岸に渡河しました



10月17・18日木津川15.2km 両岸に6基の竹蛇籠設置



竹蛇籠の周囲に変化が見られる
砂が張り付いてきた



竹蛇籠設置による水生生物の種数の変化

- 大きな反転流が見られた 先端に深ぼれが発生 反転流も発生

1週間 メダカ タモロコ(たまりを好む魚)ギンヤンマのヤゴ スジエビ

テナガエビ コカゲロウ ヒラ外ロムシ ウスバガガンボ カワナ スジエビ

エルモンヒラタカゲロウ ヒメヒラタカゲロウ キブネタニガワカゲロウ

モツゴ タモロコ ヌマチチブ メダカ ヒメウスバカゲロウ ワンドフタオカゲロウ

ガガンボ ミキワハエ オオアメンボ クロスジギンヤンマ ミヤマサナエ

シオカラトンボ

水生生物の種数の変化 右岸 6⇒17種 左岸 19⇒26種

右岸 魚2⇒6 エビ0⇒2 カワゲラ1⇒1 トビゲラ2⇒2 ハエ0⇒1 トンボ0⇒1

左岸 魚2⇒3 エビ1⇒3 カワゲラ1⇒1 トビゲラ7⇒4 ハエ1⇒2 トンボ2⇒4

オオムラサキの観察から

里山農園では 田植え体験 稲刈り体験 新米ご飯 丹波の黒豆味噌で味噌汁
昆虫観察 植物観察 七草摘みと七草粥 春の野草を食する会
原木から切り出す炭焼き体験 ホタルの夕べと里山音楽会
オオムラサキ観察と調査会 ササユリを楽しむ会 夜間昆虫観察
野菜の栽培 冬野菜 春野菜 夏野菜 秋野菜 トマト キウリ
ナスビ サツマイモ サトイモ チンゲンサイ ホウレンソウ 玉葱
カスミサンショウウオ アカガエル カヤネズミ ノウサギ
芋名月 お茶会

教育棟の実現 雨天でもイベントの開催 可能

観察棟の実現 高いエノキの葉などをそのまま観察調査が可能

里山農園塾周遊通路完成 四季折々の観察が自然のまま行える



春の七草摘み(秋の七草観察・オスキナフクハ)



オオムラサキの卵 京田辺市水取
015.7.20. 18:43 (エノキ No.1 付近のネズミサシの樹)



オオムラサキの産卵
2015.7.20. 14:46 (エノキ No.19)
京田辺市水取





春の野草を食べる会

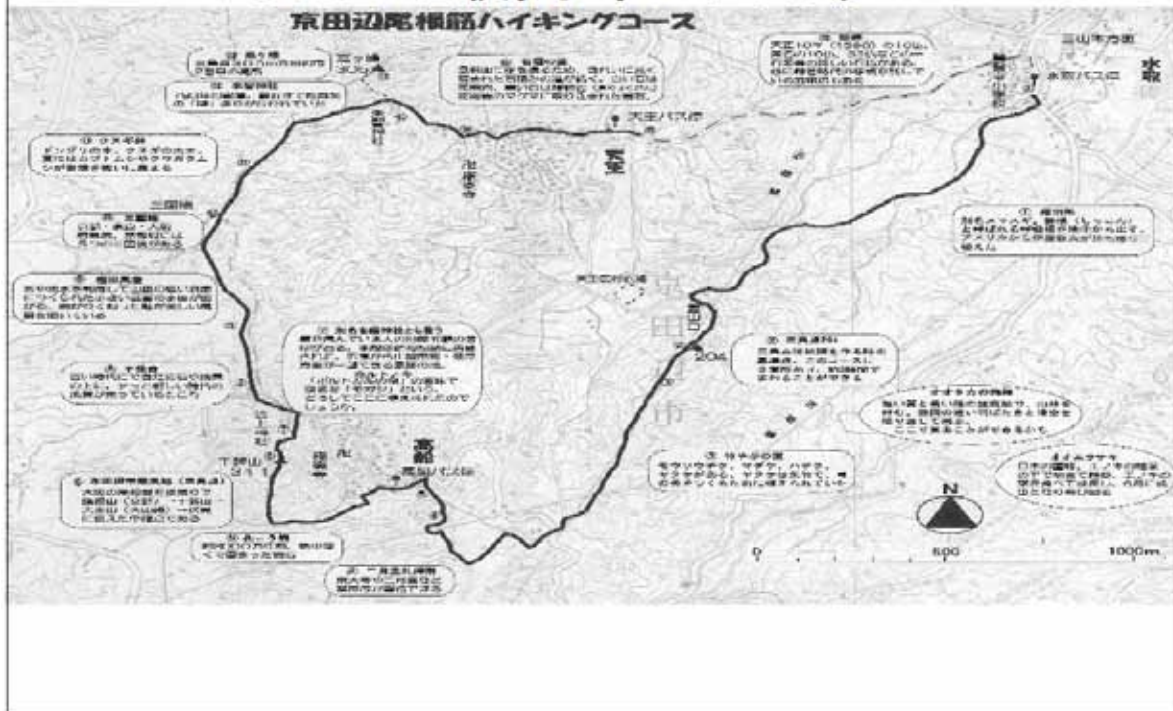


親子で 田植や稲刈り 魚取り



田辺の最高峰に登ろう

京田辺尾根筋ハイキングコース



里山の会の課題

- 高齢化 ここが一番の悩み
- 子どもの参加をもっと多く 優れた自然環境を生かす
- 更に地域との連携 他団体との連携
- 会員の増加 250名の達成
- 若者との共同取組み 同志社大学 摂南大学 京都大学
- 自然を大切にする仲間の輪を大きくする...スロウガンの実現へ
山は海の恋人 川 下流の人にきれいな水を ごみ問題